

設計課題 「健康づくりのためのスポーツ施設」

I. 設計条件

この課題は、中核都市の市街地の公園の一角において、健康増進のためのエクササイズ等を行う温水プールのあるスポーツ施設を計画するものである。

本施設は、地域住民も気軽に利用できるレクリエーションルームやレストラン等を設け、スポーツ・レクリエーション等を通じて、健康増進を図るための活動拠点となるものとする。

また、計画については、上足(裸足又は上履き)で利用する有料ゾーンと、下足で利用する無料ゾーンを適切にゾーニングした計画とするとともに、各部門の動線に配慮した計画とする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は90%(特定行政庁が指定した角地における加算を含む。)、容積率の限度は400%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好である。なお、支持地盤はGL-1.2mとし、支持地盤以深の圧密沈下及び液状化の可能性はなく、杭打ちの必要もない。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。

2. 建築物

- 構造、階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、3,000㎡以上、3,500㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー及び屋外階段は、床面積に算入しないものとする。なお、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(娯楽スペース、設備スペース、駐車場等)については、床面積に算入するものとする。
- 要求室
下表の室は、全て計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
・スポーツ部門は有料とし、スポーツ部門受付で料金徴収する。 ・スポーツ部門は上足で利用する計画とする。			
スポーツ部門	温水プール室	・プールは、長さ25m、4コース(1コースの幅2m)、最深1.2mとし、車椅子使用者の入水に配慮したスロープを設ける。 ・気泡浴槽(30㎡程度)、採暖室(30㎡程度)、監視員室、器具庫をプールサイドに設ける。 ・天井を張るものとし25mプールの上部の天井高は、6.5m以上とする。	適宜
	フィットネススタジオA・B	・2室(100㎡程度/1室)を設け、体操、エアロビクス、ダンス、ヨガ等を行う。 ・それぞれに、器具庫、壁の一面に鏡を設ける。	計約200㎡
	トレーニング・体力測定室	・トレーニングマシンのスペース(80㎡程度)及びストレッチ等が行えるスペース(50㎡程度)、健康相談ブース2室(10㎡程度/1室)、ドリンクコーナーを設ける。	約200㎡
	更衣室	・男性用、女性用として2室(120㎡程度/1室)を設け、それぞれに、車椅子使用者用更衣室1室、ロッカー、洗面台、シャワーブース、サウナ、便所を設ける。 ・温水プール室、フィットネススタジオA・B、トレーニング・体力測定室の利用者が使用する。 ・温水プール室へ直接行き来できるようにする。	約240㎡
	観覧用ギャラリー	・温水プール室を見渡せるように、かつ、温水プール室に12m以上接するように計画する。	適宜
	休憩コーナー		適宜
管理・共用部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・吹抜け(50㎡以上)を設け、梁を設けない構造計画とする。 ・売店(50㎡程度)、展示コーナー、映像等を鑑賞できる視聴覚ブース(4ブース。約4㎡/1ブース)を設ける。	適宜
	レクリエーションルーム	・健康増進のためのレクリエーション、イベント、セミナー、ワークショップ等に利用する。 ・2室に分割して、それぞれ個別に使用することができるようにする。	約120㎡
	レストラン	・テーブル、椅子(50席程度)、レジカウンター等を設ける。 ・厨房、調理人の控室及び便所を設ける。 ・外部からも直接アプローチできるようにする。	適宜
	事務室	・施設全体の受付・運営・管理を行う事務員の執務スペース(事務員5人分)とする。 ・受付カウンターを設ける。	適宜
	スポーツ部門受付	・スポーツ施設部門の料金徴収ができる受付を設ける。	約20㎡
	会議室	・職員(事務員・指導員)が8人程度でミーティングができるようにする。	適宜
	職員更衣室	・男性用、女性用として各1室を設ける。	適宜
	職員休憩室		約40㎡
	医務・救護室	・温水プール室との動線に配慮する	約20㎡
	設備スペース	・採用した空調設備の計画に応じて、空調機械室、屋外機器置場等を計画する。	適宜
電気室	・受変電設備及び非常用発電設備を設ける。 ・設備機器の搬出入及び更新に配慮する。	約80㎡	
機械室	・熱源設備、水槽類、ろ過機、ポンプ等を設ける。 ・設備機器の搬出入及び更新に配慮する。	約180㎡	
・下足箱、便所、従業員等の出入口、倉庫及びゴミ保管庫については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室、什器等は、適宜計画する。			

3. 屋外施設等

- 敷地内の駐車場は、地上に平面駐車とし、車椅子使用者用として1台分、サービス用として2台分(計3台分)のスペースを設ける。なお、利用者・職員等の駐車場は、西側の公共駐車場を利用するものとし考慮しなくてもよい。
- 敷地内の駐輪場は、利用者用として20台分を設ける。
- (1)～(2)の「屋外施設等」は、床面積に算入しないものとする。

II. 要求図書

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Iに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、建築計画、構造計画及び設備計画において留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(スパン割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]、煙突の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース ヘ. 断面図の切断位置 ト. 延焼のおそれのある部分の位置(端部を点線で図示する) チ. 開口部に設ける防火設備等(ダンパー類を除く。)の種類(答案用紙Iに記載の凡例にしたがって図示する) リ. 要求室の特記事項に記載されている室、スペース、什器等 ② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。) ハ. 通路、植栽等 ③ 2階平面図及び3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路を図示し、その一に至る歩行距離及び重複区間の距離 ロ. 下階の屋根、ひさし等となる部分
(2) 2階平面図 1/200	
(3) 3階平面図 1/200	
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、温水プール室を含み、建築物の立体構成(1～3階)及び屋根形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高並びに1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙Iに記入)

- 建築面積を記入し、その算定式も記入する。
- 各階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙IIに記入)

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(7)の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

- 「有料ゾーンと無料ゾーン」及び「上足と下足のはきかえ」に配慮した動線計画について特に考慮したこと
- 防火区画(面積区画、堅穴区画)について特に考慮したこと。なお、異種用途区画については、考慮しなくてよい。
- 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りについて特に考慮したこと
- 温水プール室の天井について、天井等落下防止対策について特に考慮したこと
- プール室における冬期の空調設備計画について特に考慮したこと
- プール室の空調の吹出口の計画について特に考慮したこと
- 環境負荷低減手法として、「太陽熱」、「地中熱」、「井水」のうちから2つ選択し、これらの利用方法及びその省エネルギー効果について特に考慮したこと

